

イノベックス、熱交換能力5倍に

建設資材などを手掛けるイノベックス（東京・中央）は井戸を活用した地中熱の採熱設備を自社工場の空調に導入したと発表した。井戸の中に採熱のためのチューブを設置し、チューブ内の不凍液を通じて熱交換する。地中に直接チューブを埋め込む従来の方法に比べ熱を交換する能力を5倍程度高めた。

静岡県袋井市にある工場の敷地内に新しく8本の井戸を掘って導入した。空気を熱源にするヒートポンプと共に使い、冷暖房能力は500キロワットとなる。今回の工場では重油を使っていた従来の空調と比較して、燃料代や電気代などの空調費用を約78%、二酸化炭素（CO₂）を年間316トンそれぞれ削減できる試算だという。

地中熱は地下100㍍ほどの地点にある熱エネルギーで、地下数千㍍ほどの地熱とは異なる熱源だ。地中熱は年間を通じてセ氏15～



静岡県袋井市の工場に地中熱利用システムを導入した

18度で、夏は冷たく冬は暖かい。農業施設や大型ビルでも導入を進めたい考えだ。地中熱利用システムの売上高を2024年3月期に7億円を目指す。

（鈴木麻佑子）

＝9月25日公開N I K K E I G X